

お 詫 び

発送した会報「海原」42号にミスがありました。

関係する方々にはご迷惑とご心配をおかけいたしました。

心よりお詫びをいたします。

なお、HPに掲載してあるバックナンバーは訂正をいたしております。

- 1 我ら海城人でお話をうかがった吉野信さんの卒業年は昭和35年と
なっていましたが、正しくは昭和36年です。
- 2 計報欄に掲載されている平成2年卒の川島一晃さんは当方のミスです。
ご健在でいらっしゃいます。

今後はミスの無いように、いっそう引き締めて作業を進めてまいります。

申し訳ありませんでした。

海原会

う な ば ら 海 原

題字河原孝好先生

発行
平成 27 年 12 月 1 日
第 42 号
海原会
編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園
TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641
ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>

帰ってきたトネサン 学園にリトグラフ作品を寄贈

画家利根山光人、通称トネサンは「太陽の家」と呼ばれ内外で高い評価を受けている。すでになくなつて21年経つが、実はこのトネサン、終戦直後に海城の美術教師として教鞭をとっていた。そんな縁があつて、このほどトネサンの奥様、弥恵子さんから「お世話になつた海城に」と、残された作品の中から数点のリトグラフ（石版画）などが寄贈された。

思い出せば、古賀理事長は昭和33年卒でトネサンの授業を受けた最後の学年の一人。同ったトネサンのアトリエで、弥恵子夫人も理事長もその頃のよもやま話に花が咲き珍談奇談が語られ、海城時代のトネサンの変人ぶりに話が弾み、懐かしんだ。とにかくトネサンは面白い先生で、生徒全員に百点をつけたたり、それ以上の絵を描いた生徒に百二十点つけたたりして、教頭と喧嘩

をした。当時の僕たちは心中拍手喝さいした。美術教師の無免許が発覚した時、当時の理事長の計らいで講習を受けて免許を取得したということもあった。何しろ戦後の混乱の中、先生も先生なら学校も学校だ。あの先の見えないう時代に、僕たち生徒の強い味方が出現した奇跡というか、「幸運」の巡り合わせの海城にいたことに感謝したい。

トネサンは11年間の在籍で惜しまれつつ辞め、美術家として絵描きの道を進んだ。教師を辞めたトネサンは、当時の芸術家のメッカ、パリに目もくれず、メキシコ・インドと造形言語を求め、高い評価を得ることになる。

利根山光人の作品は東京国立近代美術館・世田谷美術館・板橋区立美術館ほか7館に収蔵されている。

僕たちはトネサンを喪つて、その失望感はあまりにも大きい。作品の放つ原色は、トネサンそのもので自由奔放、天衣無縫だ。古いものと新しいもの、生と死、恋と青春といったものが絡み合い、突き抜けるような青い空の下で独特のほろ苦いカクテルをつくっている。

利根山光人先生は72歳で亡くなられた。もう少し生きていたらいいなかつた。

利根山光人

昭和21年、32年、美術教師として海城学園に在職。現在のKSの校章は利根山氏のデザインによるもの。アキラ・アステカ・エンコミエンタ賞（メキシコ政府。紺綬褒章、日本芸術大賞など受賞・表彰多数



記念広告募集

来年、海城学園は創立125周年、海原会も95周年を迎えます。会報「海原」では記念広告を募集いたします。皆様、この機会に是非ご協力ください。

記念広告概要

広告主	海城OBに限ります
広告サイズ	1枠 名刺程度(9.7cm×4.5cm)
掲載料	1枠 12,000円(税込)
発行日	平成28年5月1日予定
※切	3月末(埋まり次第※切)

掲載誌
読者層
発行数

会報「海原」43号(総会特集号)
海城OB・現役生・教職員
約20,000部 総カラー印刷

お問合せ TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641
HP <http://www.unabarakai.jp>

あの頃の学園生活—昭和初期編

我々はここで育てられた

昭和13年卒 稲垣金作さん 寄稿



今回依頼により在学当時（昭和8年から13年）の模様を簡単に書くことになりました。

開設間もない新大久保駅
昭和8年当時は新大久保駅のホームには未だ砂利が敷いてあり、ここから中央線の大久保駅も間近に見えました。近くの戸山ヶ原は風が吹くと砂埃が舞い上がり空が赤茶色になり、また校舎裏には高くして大

80年前の海城学園

さい三角山があり、その隣には長い蒲鉾屋根の実弾射撃場がありました。当時の学校の建物は体育館兼講堂の位置は現在とあまり変わりませんが校門の大きな木と校舎裏の広い運動場はありませんでした。当時の二階建ての校舎の右側には同じ二階建ての別棟があって、その一階には生徒監室、柔剣道室があり、二階には階段式の音楽教室と工作用の部屋があったと思います。そして、その建物のそばには裏門がありその東側には少し広い園芸農場があったように思われます。

当時の国際情勢は入学前の昭和6年には満州事変、在学中の昭和12年には日支事変と戦時色が次第に強まりつつある時代でした。特に海城学園は創立の趣旨から海軍色が強く、当時の校長は吉見海軍中将で、校服、学帽の徽章、脚絆に至るまで海軍式でした。また登下校時はいつも校門に立ち止まって正面玄関の上にある校章に敬礼することになっていました。特に

の組に分け、各学年ごとに行われる毎年の試験の成績によって組順、席順が決められておりました。先生の紳名ですが、前記の生徒監室にいる軍人あがりの二人を「まんちゃん」とくさんと呼んでいました。また顔中あばたのある英語の先生を「がんもどき」、数学の若い方の先生を「豆狸」、年寄りの先生を「あんぱん」と、また工作園芸の先生を「赤豚」と名付けておりました。なお宿題を忘れると顔中墨汁を塗り校内を歩かせる面白い習字の先生もおりました。



太田忠徳先生 加藤織右衛門先生 長渡信久先生 向出利雄先生

(昭和15年卒業アルバムから)

昭和15年卒 池田祥三さん 前田忠行さん



入学が昭和10年、お二方とも「自由な良い時代だった」と振り返る。池田さんは「勉強もしないで映画ばかり見ていた。学園生活で嫌な思い出はまったくない。楽しかった」とおっしゃる。前田さんは「音楽好きの友達の家についてピアノを弾いたりバイオリンを弾いたりしていた」ことを懐かしく思い出す。

昭和16年卒 宇野教太郎さん 寄稿

校章に敬礼

昭和11年4月 私は海城中学校に入学した。家から中学校までは東横線の田



校舎の裏側には銃器庫があって三八式歩兵銃、三〇年式歩兵銃、旧式銃等が多数

は船から飛び込んだ。3年生の時に私は班長になった。夜上級生から生徒の中に夜になると夢遊病者のように徘徊するものがあるから注意するように言われたが特別なことは生じなかった。

太平洋戦争境に激変

に軍隊的な雰囲気はなかった（池田さん）。ただ規律は厳しく当時教令というものがあつた。「忠節をつくし、礼儀正しく、武勇をたつとび、信義を重んじ、質素を旨とする」というものだ。「とにかく礼儀とか作法とか、厳しかった。服装検査もよくやられた。集団で行動するときにはラッパで指揮していましたね」（池田さん）とその様子を語る。

徒はすぐ退学させられていたからではないかと思う（池田さん）とその厳しさを語る。自由な雰囲気 それでも学園生活の楽しい思い出の方が多いうだ。お二人とも偶然ながら卒業前は北組だった。東組は陸士や海兵学校や東大などを 目指して 勉強しているクラスだが、北組は勉強より他のことをやる個性的な人が多かったクラスという。「友人の別所君は映画監督になると言っていた程の映画好きだった。残念ながら沖縄で戦



死しましたが。バイオリンばかり弾いている人もいたな」と池田さん。前田さんも「ジャンギヤバンがどうのロバートテラーがどうのと言つて映画の話ばかりする人がいた」と北組の雰囲気語るがひよとすると同じ人の話かもしれない。さらに前田

さんは大の音楽好きで後にバイオリンの先生で身を立っている。池田さんの話にてく学校でバイオリンばかり弾いていたのは実は前田さんのことだったのかもしれない。「当時男の人で音楽をやる人は少なかった。それでもいじめられることもなくそれぞれ自由によつていた」（前田さん）

先生の思い出 前田さんが印象深い先生は国語の太田先生。「南大東島の東は「とう」でなく「あがり」と読むんだと言つていたことを思い出す。また「三枝先生には一度作文を褒められ、文才があるぞと言われた。音楽の向出先生は厳しい先生で授業中皆静かにしていた。私は個人的に向出先生にバイオリンを習つていたこともあつて、向出先生に対してはカッコイイ先生だなと憧れていました」

池田さんも「園芸の有吉先生は牛糞をつかめなければ園芸はできんと順番に手づつかまされた。3年の時長渡先生が国語の先生として川村女学院から来て着任した。皆

た。学校に行こうと当時通っていた吉祥寺の駅に向かったら皆逆方向に戻ってくるんですよ。何かドンパチあったらいいという話が聞こえ、駅に着いたら電車が止まっていた。帰らされたこと。226事件だ。それでも「まだあまり政治的なことは分らなかったし、軍人が威張りだしたといったことをラジオや新聞が伝えていたがそんなものかと思っていたという。」

厳しい規律

そんな社会情勢の中でも「学校の授業内容などに大きな変化はなかった」(前田さん)、「軍人の子息も周りにはいたが、学校

昭和18年卒 安田晴幸さん

軍事色強まる 厳しい軍事教練



昭和16年日本が太平洋戦争に突入し、学校も別世界ではいられなくなった。いろいろな面で軍事色が強まった。「昭和17年だった。4年生の時、昼休みに学校の屋上で友達5、6人と遊んでいたら、爆音が聞こえ、双発の飛行機が目の前に飛んできた。操縦席の顔が見えた。「毛唐だ」と誰かが叫んだ。警報もなにもなかった、その飛行機が飛び去った後高射砲の音が聞こえ空襲警報のサイレンがなった」ことを経験している。

さらに「戦争がはじまると英語の授業がカットされた。その分軍事教練が増えたように思う」。教練は軍隊の予備校みたいなもので、実務指導は菅原先生が担当だった。週二回ぐらいあった。そこでやるのは隊列行進とか銃剣術の扱い、軽機関銃を持つての駆け足とか、ほく前進とか。ゲートルの巻き方もあった。夏休みや冬休みには富士の裾野の演習場に行かされた。「2月でまだ」



園調布駅で電車に乗り渋谷駅で山手線に乗り換えて新大久保駅で下車し、家を出てから学校に着くまで約50分かった。学校

海城中学校5年間の思い出

泳げる白、少し泳げる

の建物は正面屋上に校章の錨がついていた。校庭の左側には砂場があり、庭の真ん中に大樹がたっていた。登下校の際は校章に敬礼をした。毎朝始業時には全校生徒がクラス毎に正面玄関を中心に縦に並んで整列しそろって校長に敬礼をした。

講堂は正面より向かって右側にあつて入り口近くに相撲の土俵が築かれていた。その北側に生徒監室があった。私たち生徒は生徒監室と柔剣道場の横を通り下駄箱に靴を脱いで教室に入った。一年生の教室は正面からみて右側2階にあつた。校舎の裏では小使さん夫婦が仕事をしていたが2階から下を見下ろすとおばさんの頭髮が薄くなっているのがみえた。

戦前の水泳部のメダル表裏



もは黒線一本を付けた帽子をかぶった。水泳部の宿舎は海岸の二隅にあり、前は館山湾(鏡ヶ浦)で洲崎灯台が見え、灯台付近には海兵が駐屯していた。私は泳げるほうだった。2年生、3年生の時も参加した。時に東京湾に連合艦隊が入った時は沢山の汚物が流れてくることもあった。

遠泳は洲崎方面の岩場から水に入り、昭和13年のとき

戦争の足音

昭和15年に入ると卒業関西旅行のうわさが流れた。すでに臨戦態勢の空気がとなっていたので旅行は難しからう、軍艦に乗せて連れて行ってくれないかと話していた。

昭和15年12月友人の高島肇君が海軍兵学校へ72期で入学した。彼は兵学校を卒業して飛行機搭乗員になり、昭和19年台湾沖航空戦で戦死している。新井頼孝君は東京商大在学中昭和18年の学徒動員で海軍に入り、海軍主計少尉で復員し大学へ復学している。私は昭和16年海城中学校を卒業して山梨精工機械科に入学、昭和18年9月卒業し、海軍技術見習尉官の採用試験に合格した。軍装品の受取に行つた際、横浜高工造船科を卒業した小津勇君に会い、一緒に海城中学校に挨拶に行こうと誘った。某日5年生の時に担任をされていた本多先生に挨拶し、先生に古見校長へ挨拶させていたのだ。校長も喜ばれ激励された。

昭和18年9月30日、私は海軍技術見習尉官に任命され、中国青島の島部隊折田隊に入隊し5カ月間の教育、訓練を受け、昭和19年3月それぞれの任地に赴任した。

というのを貰った。私ともう一人はその中で一級の認定を受けた。

一方食糧の自給自足を目的に板橋の下頭橋に学校の農場があった。そこで農作業をやっていた。

兵役意識し進学決める

軍隊では何か特技があると有利ということも聞いていたので、中学では柔剣術部、射撃部、柔道部に所属していた。「射撃部だけが実弾をつかった射撃ができた。しかも海城には菊の御紋章が入ったまま下賜された三八式歩兵銃が3丁あった。それを扱った

から冷やかされていた。でも熱心でいい先生だった」という。

軍事教練もあったというが「戸山ヶ原で戦術訓練もやった(池田さん)」「専門の軍人さんが来て採点したりしていたね(前田さん)」とまだ嫌な思い出となるほどのきつい訓練ではなかったようだ。

(取材・まとめ 石原長夫、小西洋也)

時は感激した」。

実際に軍に徴兵された時には中学で柔剣術の段を取っていたので「目おかれ、射撃も古参兵士よりうまかったので」「上官からのしごきも他より緩やかだった気がする」。

3年過ぎると予科練とか少年飛行学校などに行く人もでてくる。海軍士官学校をめざす人も多かった。「授業は普通でしただ病弱だとか目が悪いとかとかいう人は経理学校とか海軍機関学校などへ入った」。



それでも進学は自由だった。昭和16年に学徒出陣が始まり、文系は有無をいわせず兵隊にとられたが、理系は徴兵延期措置がとられていた。昭和20年にはその延期制度もなくなるのだが、中学生ながらそんな事情をみて理系の星薬科大学に進んだ。「海城からは同期が3人入った」。大学で学徒動員を経験さらに兵役を務め、戦後昭和23年に都立衛生局の技官として採用され薬物検査や取り締まりなどをやっていたといふ。

(取材・まとめ 小西洋也、松下憲一)

座談会

池田多門／土井讓／森昭雄／杉浦宏／梅原力／島方重泰／泊懋

我ら「馬方組」競馬場で勤労 戦争・敗戦・新時代を体験

海原二三四会（昭和22、23、24年卒）

戦争さなかの入学

「入学して初めての行事が山本五十六の国葬参列だった。6月5日この日は東郷



泊さん

元帥の国葬の日に合
わせたんですよ。
五十六さんはもつと
早くに死んでいるん
ですが伏せていたん
ですよ（泊）「多摩墓
地へ運ばれる遺体を



甲州街道で並んで見送ったのだが、ものすごく静かだった記憶がある。霊柩車の車輪のきしむ音だけが聞こえた（杉浦）

「19年の1月の早朝だった。柔道と剣道の寒稽古の最終日に明治神宮を参拝に行った時、東条英機首相が私服というか国民服姿で一人か二人のお付きと参拝しているところに出会った。我々は整列して挨拶した、おそろくお忍びの参拝だったのだろう。首相は我々に声をかけて「君は弁当を持ってきたのか」と聞いたことがあった（泊）

勤労動員



土井さん

2年生の2学期終
わりごろから3学期
には勤労動員が始
まった。はじめは「水
道局の手伝い」だった（杉浦）が「3年生の
6月からは府中競馬
場へ行かされた。挽馬機動隊整備部隊（池
田）「疎開していた人が50人ぐらいいただろ
うか、競馬場へ行ったのは100〜150人
ぐらい。学校に行かず府中競馬場に通った」
（森）「競馬馬を挽き馬に調教するというの

が仕事だが我々中学生は清掃とか餌やりと
かの雑用係だった（土井）「競馬馬は300
頭位いた。我々は一人2頭ほど当てがわれ面
倒をみた。健康管理、運動、餌を食わせる、
清掃（泊）「体の小さい中学生がどうこうで
きるわけない。引張られて多摩川で水浸
しになった事があった（島方）「馬の餌もな
くて多摩川に出た時草を刈ってきて食べさ
せた（杉浦）「家から通ったのもいたが、寮に
入ったのが20〜30人いた。僕も寮に入ってい
た（森）「競馬場から帰ってくると電車でク
サイクサイと言われた（土井）「競馬場で朝
の1時間、勉強しろって授業もあった。国語、
数学、英語、とかやっていた。いつの間にか終
わってしまった（杉浦）「競馬場にいったのは
我々だけでしょ、学校では僕は馬方組とい
われていた（泊）「工場に行かされるよりは
良かったのではないか（島方）「今考えれば
楽しかったな（梅原）

海軍VS陸軍の雰囲気

学校には陸軍から配属将校が配属され
学校運営管理や軍事思想教育をやってい
たが「海城はミリタリズムが横溢すること
なく自由だった（池田）「教官には早見とか、
師岡とか、ねもちろん、根本生徒監とか、こわ
もての人でどなりまくっていたのがいたけど



池田さん

ね（泊）
「教錬について学校
はあまりうるさく
いかなかった。海軍は
陸軍とは違うとい
意識があったのでは
ないか（杉浦）「陸軍の
少年飛行兵学校の見学に行ったことがあ
った。そこで同年代の生徒が君らはこんな学
校にくるなよと言っていた（土井）



「陸軍的な理不尽な教育があったんでは
ないですか（森）「幼年学校でも士官学校で
も同じだっ
たのではな
いかな（土
井）

「海城は
設立からし
て海軍系
だから陸軍
にはあま
り良い感情
を持ってい
なかったの
ではないか
な。海軍
は観艦式

はやるけど観艦式はやりたくないね。陸軍と
は違いますよ（森）

島祐吉校長について



杉浦さん

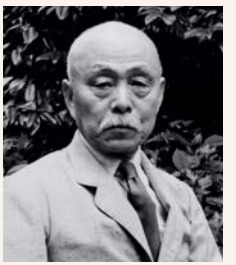
「陸軍の教育総監
部から教錬の評価を
する査閲官が学校に
来た時、島校長は軍
服を着て出むかえた
ことがあった。普段
島校長は背広なのに
なぜ軍服と思ったんですが、その査閲官が車
を降りて島校長に敬礼するんですね。査閲
官は偉い人でも陸軍大佐クラスでしょ、島校
長は退役とはいえ海軍中将、たぶん私服だっ
たら相手もそこまでやらなかったでしょう。
すごい人だなと思いました（杉浦）

「海城の教錬の評価は「概ね可なり」と
いうものだった。でも島校長は可でもいい。
元気でさえあればいい。子供たちは体さえ
丈夫であればいいと言っていたというんです
ね（森）

「年2回ぐらい全校生徒・職員を集めて
島校長が戦況報告をしてくれた。ミッド
ウエー海戦の敗北などもその時語っていた。
衝撃だったね。大本営も発表もしてないん
ですよ。連合艦隊がやられた。日本はこれ
から極めて厳しいと。強烈な印象だな（池
田）「そばに陸軍の配属将校もいたが彼らは



「ええ」と居ても
立ってもいられない
ような顔をして聞い
ていた（泊）
「我々が府中競馬
場の勤労動員から
学校に戻ったときは
島校長は校門に立っ
て我々を出迎えてく
れた（泊）



島校長

「あとで聞いた話だが、島校長は終戦で退任することを決めていたのだが、我々の勤労動員が10月まで延びたものだから、我々の帰りを待っていたんだよ。終戦から2カ月余りは校長は毎日出勤して終日校長室に入っていたことがなかったと言っていた。我々が10月に学校戻ったとき全校生徒がやとそろうた。これで安心して身を引くことができると挨拶された」(杉浦)



森さん

「いつも手を後ろで組んで教室の様子を見て回っていたね。学校の教育について教育総監がとやかく言ってくるのを校長自ら防いでいたのではないかな。ジェントルマンで温厚な人だった」(森)「社会に出てからもあんな純な綺麗な顔をしていた人を見たことがない」(泊)

授業、学園生活

「1年目はなんとか普通に授業があったけど19年から21年はめちゃくちゃだった。2年生の2学期終わりごろから3学期には勤労動員でしょ。3年生の夏に終戦でしょ。それからその年は何やったか記憶がない。翌年の21年もなにやっていたかわからないな。先生も食うや喰わずでしょ。5年生の22年になってすこし勉学体制が整ったかな」(池田)

「空襲警報が鳴ると帰された。通学も大変で爆撃などがあると止まったり避難したり、歩いて帰ったことあった」(泊)「省線の本数も少なく、終戦後は満員電車で連結機の上まで人が乗っていた」(池田)「扉も板を打ち付けていたのもあったよね」(泊)

「終戦直後は食糧難でね、弁当検査というのがあった。大概はいもばかりだが中には白米(ヤミ米)の弁当を持ってくるのを見て、それらは恥ずかしくて見せられなかった。悪い事やっているのではないかと」(池田)「上履きなどないのでみんなはだしだった」(梅原)

講堂再建

「学校の講堂が焼けたのは20年の4月ごろの空襲だと思う。講堂が焼けた時学校の近くに住んでいた同期の福田とか生徒も駆けつけて消火して、延焼を防いで本校舎は無事だった」(森)

「我々は4年生の時講堂の再建のために1週間から10日間休みを取られ、再建費を工面するために皆でアルバイトを半ば強制的にやることがあった。沖仲仕のしごととか中には進駐車の物資を横流しするものもいた」(泊)

「勤労動員の競馬場の仕事で月額25円が支給されたと聞いている。我々は受け取っていないので、そのお金はすべて学校へ寄付したことになるのではないかな」(池田)

敗戦・制度改革

「敗戦直後、校章が取り外された。確か古賀喜三郎さんの銅像も撤去されていた。鉄棒だけが残った。制服は海軍の士官服だったが、開戦後は教練服みたいなものになった」(杉浦)。「配給だったかな。靴などなくてね。くじ引きだった。サメ皮の靴だった」(梅原)「上級生は海軍の白い脚絆を付けていたが僕らの時は



梅原さん

なくてね」(池田)

「4年生の時は1クラスしかなかった。引揚者とか予科錬とか少年兵学校から1クラスくらい受け入れた。生徒を追加募集したのはこの時だけじゃないかな」(土井)「我々の代は一年から二緒の人が半分ぐらい、4年から合流したのが半分ぐらい」(池田)

「我々の成績トップの梅原は4年から大学予科へいった。我々の年代は4年から予科や旧制高校へ進むことができた。あとは5年で中学を卒業した。それから中学3年高校3年の新制度が始まって、卒業年次がバラバラになっている」(森)



「5年の時女性が入ってきた。1クラスぐらいはいたんじゃないか、中学は。高校に行きた人は少なかったと思う」(池田)

「女の子が入って来た時に、教頭の永田さんが訓示で、おかしなことをした人は頭のおかしい人と思うからといていたのを思い出す」(泊)

戦後復興

「終戦の翌年に野球好き3人と下級生10人ぐらい集めて野球を始めた。グローブもボールもないし、グローブは自分たちで作ってはじめた。最初は軟式、ゴムまりですよ。ベイスはコンクリートのブロックだった。同じころサッカー部もできて狭いグラウンドを取り合



島方さん

した。4年生の夏ぐらいにやつと硬式ボールで試合ができるようになった。そこから野球部が始まった。一年後輩の連中が大会で準々決勝ぐらいまでいった。ピッチャー小川、キャッチャー桜木ね。早実に負けた」(島方)

「可児先生も野球好きだったね。島方たちを百万ドルの内野だと言っていた。ショート島方、セカンド小山、サード花井、ファースト福田ね」(泊)

終戦直後「陸連の講習会があつて、東京都の中学校対抗の陸上競技が開かれた。そこで海城が2位になったことがあった。短距離が弱かった、最後の100メートル競走で負けてしまった」(杉浦)「当時のスポーツ新聞にのつた。一位になったら陸上部などもできたのではないかな」(森)

ムーランルージュ(大衆軽演劇場)公演

「文化祭で新宿のムーランルージュの踊りをやつてもらおうという話になって、楽屋を訪ねて頼みに行ったことがあった。明日待子とか小柳ナナ子とか当時の売れっ子のダンサーに直談判して呼んできた。剣道場柔道場に机を並べてキャンバスシートを敷いた舞台を作つて、照明を借りてきて踊ってもらった」(杉浦)「交渉に行ったのは私と小川とか3人ぐらい。なんでやろうと思ったんだらうね。ませたのがいたんだよ。でも終戦の翌年でしょ。文化祭でやりたいのでお願いしますついたら、行つてあげるわよと簡単に引き受けてくれた」(杉浦)

「裸じゃないけどかなり露出していたよね。確か下駄をはいて傘をかざして踊っていたのを覚えている。山田君は番前で下向いていた。見ないんだよ舞台を。そういう時代だ

た」(泊)「あとから軟弱すぎると先生から怒られた」(杉浦)

先生

「思い出深いのは音楽の向出先生、校歌作曲したバイオリンを弾く先生。ベリーグッドAとか戦争中なのに英語で評点していた。戦争中ですよ」(杉浦)

「ソフト帽をかぶつて、ラクダのオーバー着てね、カッコ良かった」(森)

「英語の堀先生はお坊ちゃん育ちでとてもいい人柄のいい先生だった。国語漢文の古谷先生は例え話とか良くしてくれたね」(森)「あの先生のお陰で本一杯読んだ。本読むことを教わった」(杉浦)

「2年の時、かにとら、可児虎夫先生はよく古今東西の話をしてくれた」(森)「馬に蹴られたとかでおこに傷があった」(杉浦)

(取材・まとめ 石原長夫、小西洋也)





海原会 総会

6月14日(土)午後3時より母校海城学園講堂にて開催。開会に先立ち、「最近の海城」というプレゼンが中田教頭からあり、学園の近況が説明、報告された。会は会長、理事長の挨拶に続き、4月に就任された柴田澄雄新校長の挨拶がありました。会計報告、活動報告と卒業年度表彰、吹奏楽団演奏が行われた後、カフェテリアに場所を移して懇親会。昭和4年卒の清水秀雄先輩(102歳)の乾杯の音頭で元気にスタート。昨年とほぼ同数の出席者約300名による会は賑やかに盛大に行われました。



本日はこうして海原会の皆様にお越しいただき本当にありがとうございます。後輩たちが見せている笑顔は6年間を通して「人間力と学力」を身につけるということに取り組

んでいるという姿勢がみてとれます。海城学園が確かな教育をしていることがわかり我々OBとしても誇りを感じている次第です。改めて理事長はじめ教職員の皆様には素晴らしい学校にして頂いていることに感謝しております。さて海原会はさらに幅が広がっていると申しましようか、若い

伝統と新しさのハーモニー 校長 柴田澄雄

この度水谷弘前校長の後任としてまいりました柴田澄雄でございます。どうぞ



方から年齢のいった方まで幅広く積極的に参加してくれる姿勢が昨今うかがわれるようになったように感じられ嬉しく思っております。海城というブランドが多方面に浸透しているなかで、海原会の

メンバーが様々な形で横のつながりを持って、さらに現役の学生あるいはご父兄たちとも交流を深めるに立っていることではないだろうかと思

この度水谷弘前校長の後任としてまいりました柴田澄雄でございます。どうぞ

活動に多大なご理解と協力を賜り、衷心より感謝を申し上げます。非力ではございますが、これから先を見据えた本校の教育発展のために全力を傾注してまいります。所存でございます。お陰さまで今年度は330名の新1年生を迎えることができました。5月1日現在で在校生徒数は中学が991名、高校が38名、計1029名となっております。入学式で私は生徒、保護者の皆さま、教職員にグローバル化が進展する今の社会において「真のリーダー」としての資質として「新しい人間力」と「新しい学力」が求められていることを話しました。「海城の伝統と新しさのハーモニー」を創造することが、これから生きていく生徒たちの「生きる力」「確かな学力」となっていくはず。海原会の皆さまのお知恵をお借りして、教育の推進に力を注いでまいります。どうぞ「一層のご支援、ご指導、ご協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。本日はお招きいただき誠にありがとうございます。ございました。

平成26年度決算及び平成27年度予算				
(平成26年4月1日～平成28年3月31日)				
	平成26年度予算	平成26年度決算	平成27年度予算	備考
収入の部				
入会費	2,250,000	2,184,000	2,250,000	75名
年会費	780,000	774,000	780,000	280名
入会金	2,760,000	2,760,000	2,880,000	288名
総会参加費	810,000	780,000	840,000	280名
その他収入	250,000	283,300	300,000	グッズ販売収入
寄付金	50,000	27,000	50,000	
雑収入	10,000	966	10,000	
合計	6,910,000	6,818,266	7,110,000	
支出の部				
会議費	100,000	90,000	100,000	
総会運営費	1,100,000	1,082,175	1,100,000	
会報印刷発送費	4,500,000	4,497,066	4,500,000	1万8千部
会報編集費	150,000	169,650	150,000	
通信費	100,000	173,160	100,000	
クラス会補助	0	0	0	
後援活動補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
慶弔費	20,000	16,200	20,000	
振替手数料	40,000	44,243	40,000	
賃借料	200,000	234,525	200,000	
事務費	20,000	98,577	20,000	
海原会費	20,000	39,744	20,000	2名
総務費	10,000	0	10,000	
広報活動費	10,000	1,980	10,000	
ホームページ改定費	0	0	0	
備品費	180,000	263,044	0	
用品費	615,000	270,059	160,000	
海城祭参加費	140,000	165,708	160,000	
寄付金	10,000	200,000	210,000	
修繕費	0	20,520	0	
旅費交通費(グッズ販売)	0	6,660	0	
通信費(グッズ販売)	0	0	0	
雑費(グッズ販売)	0	368	0	
法人税等	100,000	70,000	70,000	
合計	7,515,000	7,643,670	7,070,000	
前年度繰越金	12,935,075	12,935,075	12,109,671	
当年度損益	-605,000	-825,404	40,000	
次年度繰越金	12,330,075	12,109,671	12,149,671	

動しはじめています。今後こうしたことをさらに発展させていければと考えている次第であります。来年度海城は開校125年になります。海原会として何かをしたいと考えています。「海城学園今昔」みたいな記念刊行物を発行して、改めて海城

のOBである事の再確認をしようではないかというようなことも検討しています。ご協力頂けたらと思っております。いずれにいたしましても海原会の一員である事はこれからの人生を充実できるなど個人的に思っている次第です。本日は多くの方が集まって頂き、これほど嬉しい事はございません。

第四回ゴルフ大会



第四回海原会GOLF会コンペ出席者

卒年	氏名	昭39	鶴殿 幸夫
昭19	小倉 康弘	昭39	吉岡 博
昭23	土井 謙義	昭40	三輪 和夫
昭32	吉岡 幸夫	昭42	森口 康一
昭33	池内 宏	昭43	永江 学
昭33	小口 正弘	昭44	岡村 清明
昭33	西川 芳弘	昭44	鈴木 政広
昭34	栗原 敏朗	昭44	大工原 光男
昭34	小山 隆昭	昭46	工藤 聡一郎
昭34	鈴木 雅彦	昭47	石黒 淳一郎
昭34	徳光 和夫	昭47	長濱 憲一
昭34	水野 春彦	昭47	渡辺 弘義
昭34	山崎 善一	昭48	角 達也
昭35	鴨下 孝信	昭48	萩野 正雄
昭36	伊藤 政行	昭48	金子 雅明
昭36	岡本 邦正	昭49	増田 弘行
昭36	久保田 隆雄	昭50	佐藤 明久
昭36	齊藤 良一	昭51	佐藤 彰展
昭36	高橋 邦雄	昭53	樋口 玲
昭36	林 靖和	昭54	樋口 純平
昭36	平井 昭策	昭56	東海 信純
昭36	平出 功泰	昭57	荒尾 明久
昭36	藤咲 浩男	昭57	坂本 伸幸
昭36	山田 雅康	昭57	清村 太郎
昭37	梶 宏光	昭62	伊藤 和寛
昭37	菅野 文夫	昭62	国井 信男
昭37	山田 和弘	平03	井上 宙史
昭37	鷺田 和雄		

大会実行委員長 昭和47卒 石黒淳一郎

第4回海原会ゴルフ会は、2015年10月9日、快晴の東武藤が丘カントリー倶楽部で開催されました。海原会会長の徳光先輩も出席頂き、総勢60名の大会でした。今回の大きな特長としては、ハンディキャップを青天井にしたこと。成績表を詳細に見ると、ハンディ54という数字もありました。これはご参加戴いた全員に優勝の可能性がある事、それに重きを置いた設定にしました。賛否両論あるとは思いますが、どなたでも気軽に参加して戴きたいの思いからです。ゴルフの上手な方がいつも優勝ではつまらないでしょ。海原会ゴルフ会は毎年10月10日第2金曜日を予定しております。会報でこの記事を読んだ方は是非来年は優勝を狙って参加して下さい。横の繋がりがばかりではなく、縦の繋がりも広がっていきましよう。一人でも多くのご参加を心よりお待ちしております。

優勝	小吹 優 (S41)	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
2位	工藤 聡 (S46)	44	44	88	15.6	72.4
3位	吉田雅明 (S48)	52	48	100	27.6	72.4
		48	49	87	24.0	73.0
1位	荒尾純平 (S57)	ベスグロ	OUT	IN		
2位	吉岡幸夫 (S32)	39	40	79		
3位	樋口稔洋 (S54)	43	40	83		
		44	39	83		



平成 27
年度海原会
総会の開催
おめでとう
ございます。
海原会が活
発に活動され、毎年総会に多数
の会員が足を運んで頂けますこ
とは、母校にとりましては活力の
源泉ともなるものでございます。
会長をはじめ会員の皆様方のご

協力に心より感謝いたします。
学園からの報告といたしまして、
まず校長の交代をお知らせいた
します。7年間にわたりご活躍
いただいてまいりました水谷弘
校長の御引退にともない、今年
度より柴田新校長をお迎えする
ことになりました。柴田校長は
早稲田大学政治経済学部経済学
科を卒業された後、三菱商事株
式会社社に就職され、在任中に韓国、

一步前を歩む学校

理事長 古賀喜博

サウジアラビア、タイに赴任され、
長く海外勤務を経験されており
ます。同社を役員定年後、国際
教養大学教授として今年3月ま
で学生の指導にあたっておられま
した。実業界、海外勤務、そして
大学での経験をご経験から母校

の教育に活かして頂けるものと大
いに期待をしております。
次に創立125周年記念事業
として進めてまいりました理科教
室のリニューアルを中心とした校
舎建設計画についてですが、震災
復興事業やオリンピックを原因と

して工事費が極端に高騰している
状況下での工事強行は得策では
ないと判断して延期することに致
しました。この延期で生まれた
期間を活用して、理
科教育を中心に最
先端の海域教育の実
現を目指して校内で
研究して行きたいと思っております。
我が国の教育はいま変革期を
迎えております。グローバル教育

と教育におけるICT（情報通信
技術）の活用、高大接続等々が話
題に上がっておりますが、どのよ
うな時代になろうとも、海域はリ
スクを恐れず常に改革前進し、他
校より一步前を歩む学校であり
たいと願っております。
母校の力強い発展には海原会
の力が必要です。今後ともご理
解と絶大なるご協力をお願い申
上げます。

見学会

江戸・東京歴史クルーズ

今年度の海原会見学会は、江戸・東京船の旅。小雨降る中、
10月11日（日）に開催された。上は昭和20年卒から下は
平成15年卒までの総勢38名が参加。夫婦家族連れも7
組あった。



浅草橋の船宿
「三浦屋」を出発。

まずは神田川を遡る。川から見上げる万世
橋や聖橋はいつもひと味違う。水道橋の先
で左へ折れて日本橋川へ。幕府の台所といわれ
た組橋、昔の魚河岸があった日本橋。歴史を
感じる。隅田川に出ると海へ向かう。勝どき
橋など大きな橋が続く。

波の静かな浜離宮の堀に到着。船宿が用意
したお弁当をいただいた。帰りは隅田川を上
り神田川へ。これにて第1ステージ終了。希
望者13名は江戸祭が開催されているという両
国の回向院で第2ステージ。

神田川から見た東京の町は高層ビルが建ち
並ぶ近代的な景色だった。逆に日本橋川では
首都高速の下にある江戸の町を垣間見た感じ
がした。

見学会部長 昭和36卒 杉山紘千佳



動物・自然写真家 見たことのないシーン を求めて

吉野 信さん
よしのしん(昭和36年卒)



18年目に満足の一枚

満月にアメリカワシントンDCのシルエットがくつきりと浮かぶ写真。どうやって撮ったのだろう。野生動物や雄大な自然を撮り続ける吉野信さんの写真をみているとふと「セレンディピティ」(Serendipity) ということが浮かんでくる。「思いがけない偶然の幸運に出会う」というような意味だ。加えて「その思わぬ発見、価値あるものを見つけられる能力や才能」をもう言葉だ。写真家に最もふさわしい言葉だとつくづく思う。

この満月とアメリカワシントンDCを思い続けて実際に撮影できるまで18年かかったという。「野生動物や自然は狙って撮れるものではありませんからね。自分の意志ではどうしようもない世界ですから」。それでも何度か通う。そんな繰り返しを続けていたら、それがたまたま



18年目の満月の日、ワシントンDCが思い描いていたところに出現したまさに「偶然の幸運」の瞬間に出会ったのである。もちろん「撮りたい」という吉野さんの写真家としての信念が引き寄せたものでもある。それでも吉野さんはさらに「運です」という。

吉野さんは子供のころから冒険とか探検とかに憧れ、高校時代は勉強よりもっぱらJ・A・ハンターの「猛獣王国ケニアの26年」とニコライ・バイコフの「偉大なる王(ワン)」といった本を読み漁っていたという。「高校時代は協調性のない生徒でした。あまり学校の思い出はない」

そんな将来像を抱きながら、高校での授業で、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の期間、いわゆる戦間期を学んだ。すると、世界大恐慌をどのように対応したかでその後の国のあり方が決まっていること、驚くほど経済が決め手となって世界が動いていることに気づいた。平成6年に海城高校を卒業後は東京大学へ。そしてその後大学院へ進み経済学者となった。

しかし今や未知の世界はほとんどなくなっている。しかもデジタルの時代で誰でもが簡単に写真を撮れる時代になった。「人の撮らない、感動させるものを撮るのは難しくなった。これからの人は写真家にならうなんて思わない方がいいよ」と吉野さんは冗談めかしている。がご本人は「偶然の幸運な出会い」に魅入られているのかもしれない。しかも「自然の中に身を置き、自然の音や空気に触れると、生きているのは人間だけではないことを実感し、自然体であるがままに対象と向き合う写真家人生を楽しんでいるようだ。これからは改めてアメリカの自然や景観を撮りつづけたいたい。そういうえば吉野さんは良き時代のカウボーイの風貌を漂わせている。ひょっとすると最後の冒険写真家なのかもしれない。」(小西洋也 記)

専門を分かりやすく 発信する経済学者

飯田 泰之さん
いいたやすゆき(平成6年卒)



経済学者の立場からコメンテーターとしてわかりやすい発言をされている飯田泰之さん。テレビやラジオでその名を見かけない日は無い。

海城への入学は中学から。高校時代は軽音楽部・KHK(海城放送研究会)・ギター部など複数の部活に所属し、青春を謳歌した。当時の仲間とは一生の友だちで、折に触れ顔を合わせるという。

そんな将来像を抱きながら、高校での授業で、第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の期間、いわゆる戦間期を学んだ。すると、世界大恐慌をどのように対応したかでその後の国のあり方が決まっていること、驚くほど経済が決め手となって世界が動いていることに気づいた。平成6年に海城高校を卒業後は東京大学へ。そしてその後大学院へ進み経済学者となった。

「以前、米大統領選でブッシュはゴアに論破されたけど勝ちました。論破だけではイヤなヤツとしてしか映らず、賛同されないんですよ」。インテリが陥るワナということか。

「海城で学んだことは、学者になったきっかけになっていますね」と飯田さん。飯田さんが在学していた当時から海城には大学院に在籍または卒業している先生が多かった。先生たちが授業や講習で脱線気味に語る専門分野の話がとても面白かったという。そのような経験を通じて、大学の先生になる、という職業の選択肢を意識するようになった。

「学者しか分からない難しい論文を、素人が読めるように直す。まっとうな知性のある人なら分かるところにまでし

なれば、知識はみんなに広まりません。いつも同じ学者がコメントするのも偏るのでよくない。色々な専門家が表舞台に出るようにならないと」と。メディアに登場する飯田さんはその先鋒というわけだ。討論番組の論客より情報番組のコメンテーターの方が好きだという。むやみに相手を論破するより、説明で信頼関係を築き納得してもらう方が効果的と考えている。

「何年も通っていたらイヤなこともある。母校が嫌いな人より好きな人の方が面白い人生を歩んでいると語る飯田さん。」(国井信男 記)

大学時代のゼミの指導教官であった蒲島郁夫先生が熊本県知事選に出馬、教え子たちで選挙を手伝った関係もあって、先生が県知事に就任後「県政を手伝って欲しい」と連絡を頂き、勤めていた会社を2週間で辞めて東京から熊本に移り住みました。熊本は縁もゆかりもないところでしたが、これも何かの運命かと思ったので特に躊躇は有りませんでした。実際に住んでみるととても良いところです。

現在の仕事は一言でいえば知事の補佐、代理です。庁内では県政の方針を決めるための会議、打ち合わせがあります。庁外では県内に進出している企業や進出予定企業の訪問、全国知事会や九州規模での会議への参加などがあります。最近では熊本県は観光誘致や物産販売などで海外に積極的に進出していますので、海外出張も多いです。また様々な行事・イベントへの出席も多く、営業部長である「くまモン」と一緒に出かける



くまモンには負けず 熊本県副知事奮闘記

平成5年卒 小野泰輔

こともしばしばあります。くまモンと一緒に仕事に行く困るのは、皆くまモンの写真を撮るのに夢中になって、肝心の話を聞いてくれないことです。また講演や寄稿依頼も多いので年中プレゼン資料の作成や

原稿執筆に追われています。しかしこのような公務としての仕事だけをこなすのでは不十分だと思っていますので、自分で判断して県内外に積極的に出かけ、農業や商工業、福祉の分野で先進的な取り組みをしている事業者と意見交換したりしています。やはり政策の判断は当事者の考えを直接聞いた現場を見たりしないと間違ってしまうと思いますので、どんなに忙しくても自分から積極的に出かけて行く時間を確保するようにしています。

ある日の思い出

昭和55年卒 堀川一彦

NHKテレビ日曜日夜に放映されていた「お笑いオンステージ」の「減点ババ」のコーナーに出演され、絵の旨かった三波伸介さんが「お父さまのお鼻の特徴は」「口元はどう」「眉毛はどう」と質問しながら黒いサインペンで二枚の肖像画を仕上げてゆくのを楽しんでいた。

海城学園の北側沿いのすぐ前にその三波さんの自宅があった。確か木造の二階造りであつたとおもう。教室からも見えろる場所であつた。授業中だつたのが、三波さんが小道を歩いていたのを見つけ、二階から生徒が声をかけた。それに対して三波さんは「瞬間をしかめたがすかさず右手を挙げて「おー」と答えられたようであつた。あの雄姿である。我に返つた三波さんは「タクシー」。

ラグビー人気沸騰 スズ少年の出現を期待

昭和56年卒 小林 優

(海城高校ラグビー部OB会長)

ラグビーの起源をご存知でしょうか。1823年、今から200年近く前にイングランドにあるパブリックスクールの



ラグビー同好会創設メンバー

ラグビー校という高校でサッカーの試合が行われていました。その試合中ゴールに向かって走り出したのが起源とされています。今でもラグビー校にはエリス少年の銅像が立っています。すすワールドカップの優勝チームに贈られるトロフィーにはウェッ

ブ・エリス・カップと刻印されています。紳士のスポーツとされるラグビーがルールを無視した我儘な少年が起源というところが私は気に入っています。

ラグビー同好会として発足されました。当時高校2年生だった今沢先輩と鈴木先輩が中心となってゼロからのスタートでした。同好会ゆえ学校のグラウンドの使用もままならず練習場といえは戸山公園や多摩川土手のグラウンドでした。そしてラグビー部として自立し高体連に加盟することを目標に掲げ2つ後輩の市川先輩も加わり学校内外の人脈を頼り高体連に加盟することができました。産みの苦しみを味わわれた諸先輩方のご苦労には感謝と尊敬の念を抱かずにはいられません。それと同時に高校生が良くそこまでできたなど自主性で行動力には驚くばかりです。

現在もラグビー部OB会は継続して活動中です。将来、また海城高校にラグビー同好会が発足した暁には全面的にバックアップしていこうと考えております。海城高校にエリス少年が現れんことを切に願います。

タンゴの発祥と背景

タンゴはアルゼンチンの首都ブエノスアイレスの東部、ラ・プラタ川にのぞむ船着き場(ラ・ボカ)地域を中心に発展した音楽である。時代は19世紀半ば頃で、我が国では幕末頃であった。因みにブエノスアイレスは「Buenos」新し、美味し、Aires」空、風という意味。ラ・プラタは「冠詞」で、Plataは銀。上流に銀鉱山があったのが由来で、正式には「Rio de la Plata」と書く。また船着き場のボカ(Boca)は口、河口を意味する。

談だが有名な「世界の海運王」オナシスはボカで成功した人である。
楽団の楽器編成のこと
時は移り徐々に真面目な音楽家が現れ、一般市民の文化的向上もあり次第にタンゴが社会に受け入れられるようになった。当初タンゴの演奏はバイオリン、フルート、クラリネット、アコーディオン、ギターなど通俗的な楽器が使われていたが、そこにバンドネオン、ピアノが加わり一躍その魅力を高めることとなった。現在楽団編成は「オルケストラ・ティピカ」という標準編成ではバイオリン2、3、バンドネオン2、3、コントラバス1、ピアノ1。これに対して、コンフント、英語でいう「コンボ」の三重奏、四重奏といった少人数編成の楽団もあるが、いずれにしても楽団でのバンドネオンの果たした役割は大きい。「スタックカート」(哀愁に富んだ透明性のある音色)など人々を引き

続「タンゴ」

昭和28年卒 杵村義昭

付けてやまなかったからであろう。
バンドネオンのこと
バンドネオンはアコーディオンに形が似ているため同じ蛇腹楽器の一つに数えられることがあるがそれは正しくない。バンドネオンは1840年代にドイツ人のハイリッヒ・バンドがリード楽器を改良して作ったもので、パイプオルガンの代用として教会の儀式などで使われていた。またオルガニスト(手風琴)とも区別されるもので、鍵盤がピアノのようなものではなく、ボタン型である点が大きく違う。
バンドネオンには二種類がある。ひとつは蛇腹を押す時の音と引く時の音が異なり、しかもボタンの配列が音階順になっ

てないのが「ディアトリコ」タイプ。これは演奏が大変難しく「悪魔の発明した楽器」と評されているものだが、アルゼンチンの奏者が愛用している。もうひとつは「クロマティコ」タイプといってディアトリコタイプの改良型。すなわちボタンの配列を音階に即して配置したものである。といつても左右のボタン操作は相変わらず大変難しい。これは欧州の楽団や日本で採用されている。この2種とも音色自体はそれほど変わらないがスタックカート(力強さに差があり、現在はほとんどバンドネオン奏者がディアトリコを使い、クロマティコは少数派になってしまった。
名曲とジャカランダの花
「一番の名曲として知られている「ラ・クンパルシータ」は行列の意味でカルナバルの行列が行き過ぎてゆくとところをイメージしたのだが、作者はアルゼンチン人ではなく、ウルグアイ人の学生だった。スベ

インからの独立(1816年7月9日)を祝った曲「7月9日」も名曲。その季節に咲く花が紫の桜の花ジャカランダ(スベイン語でハカランダ)でブエノスアイレスは紫の絨毯が敷かれる。余談だが南アの首都プレトリアもこの花が大変綺麗で有名である。
日本人のギター詩人
高野太郎氏はギターを片手にアルゼンチンからブラジル、ボリビア、ベル、コロンビア、ガテマラ、メキシコ、およそ2万キロをフルクロールやタンゴを歌って旅した日本人のギター詩人(バジャドル)である。草原(パンパ)を馬に乗って渡り、最後にメキシコ大統領に古語集「チョンタル」の詩を贈呈した人であるが先年鬼籍に入ってしまった惜しい人であった。あとになって、この高野さんは同級生の植田清志君の親せき筋の人であることが分かり改めて驚いた次第である。



生徒21名「オールナスカイ」

那須高原海城高等学校 教頭
平成33年卒 塩田顕二郎

多摩キャンパスに移転し、4度目の秋を迎えました。那須にはおよびませんが、多摩も自然に恵まれた地で四季折々の表情を楽しませてくれます。いまはキャンパスにある銀杏やプラタナスが色づいています。さて、この春からは高2が9名、高3が12名と在校生が21名となりました。果た

して21名で学校行事ができるのか。当初は心配する声も聞かれましたが、それは全くの杞憂に終わりました。生徒たちは「先輩たちが積み重ねてきたナスカイの伝統を続けていきたい」と強い気持ちを持って、6月の那須海城祭、10月の体育祭の実施を決断し、見事やり遂げました。
しかし、21名の生徒の力だけではさすがにマンパワーが足りません。そこで、那須海城の総力を結集し、保護者、卒業生、卒業生保護者、教職員も生徒と一丸となつて行事を創りあげることにしたのです。まさに「オールナスカイ」で臨む学校行事です。

那須海城祭では、教職員が屋台で腕をふるいました。教職員バンドも熱演し
連れ、演奏会を開催してくれた卒業生もいました。演奏会のラストに生徒、保護者、教職員が肩を組みながら校歌を熱唱したときには、みな胸にこみ上げるものがありました。



ました。多くの卒業生が多摩に駆けつけ後輩を激励してくれました。なかには大学時代に所属したバンドリンクラブの仲間を引き連れた卒業生もいました。私としてはソフトボールに参加したのですが、茂木監督のもと教職員チームは在校生相手に本気になって奮闘し勝利しました。

10月の体育祭も同様です。卒業生、保護者、教職員も競技に参加し、生徒と一緒に汗をかきました。午前中はリレーや長縄飛びなど運動会らしい種目をおこない、午後からはソフトボール、テニス、バドミントン、卓球といった競技に分かれました。私はソフトボールに参加したのですが、茂木監督のもと教職員チームは在校生相手に本気になって奮闘し勝利しました。
那須海城祭も体育祭も、在校生が21名の



来年度は、いよいよ高3だけの9名となります。それでも生徒は「那須海城祭も体育祭も続ける」とすでに決めています。那須海城ラストの1年、ナスカイ生の頑張りを多くのみなさんに見ていただきたいと思います。ぜひ、来年6月の那須海城祭、多摩キャンパスへ遊びに来てください。

海原会サロン

今年で6回目を迎えた海原会サロンは9月19、20日に学園の文化祭「海城祭」に今年も展示室をお借りして開催した。

企画展示は来年学園創立125周年を迎えることから、創立から現在までの歴史や時代の変遷をメディア会にプレゼンをお願いし「海城学園の歴史」とした。在校生はもとより父母の方、女子校生にも歴史は珍しかったようである



が取り分け質問が集中したのは小学校高学年の子供さんと来場した父母の方達からだ。そして今や定番となった「時代を創った海城人」は70人近い人数となり来場者に長時間にわたる説明をするスタッフも多かった。「戸山ヶ原、今昔」は昭和10年頃のスケッチと現在の風景写真とを対比展示してその違いを実感した。「三角山」などかつて在校生には懐かしい場所も出ていて郷愁を呼ぶ。

何と言っても人気のあるのは室内のテーブル上に展示した卒業年度ごとのアルバムである。卒業時の本人を探し、見つけた時に起きる当事者の感動はとても良いものである。2階の屋外で行われたブランドینگ部会によるブランドシャツやグッズの販売も好評であった。

海原会サロンは展示することの他に、模擬裁判やOBによる講演会などを実施している文実やPTAなどとコラボし、情報発信の拠点にしていきたいと思っています。

(支配人 石原長夫)

分科会

海原士業会

模擬裁判を開く

昨年に続き今年も海城祭において、士業会の中山泰章会員（S61卒）が中心となり、東京弁護士会法教育センターのご協力の元、現役生による模擬裁判を開催しました。今年は中山会員の他、岡田友佑会員（H14卒）と私も学生の指導に当たりました。



参加した10数名の学生はそれぞれ裁判官、検察官、弁護人役に別れて活動し、最大の見せ場である尋問で繰り広げられた切り口の鋭い活発な尋問は会場を大いに盛り上げました。来年以降も同様のイベントを行って行きたいと考えています。

(H9卒 堀口雅則・弁護士)

医業会

懇親会開催

5月30日（土）に懇親会を行いました。

今春にオホーツク地域的美幌町で脳神経外科が閉院することになりましたが、雨宮哲朗さん（S62）が脳神経外科が専門の宮沢隆仁さん（S48）を紹介。このこと



は北海道新聞で東京の高校で同窓だった縁が地域医療を守ったと紹介されました。今後も海原医業会を起点として様々な医療現場のネットワークを作りたいと思います。

海原メディア会

来年2月6日に総会開催

海城学園文化祭の最終日9月20日（日）に海原メディア会の懇親会を開催しました。文化祭では、海原メディア会の有志が、海原会サロンの展示をアシスト、サロンの片付けを終えた後に、懇親会



開催の運びとなりました。懇親会には植木名誉顧問や泊名名誉顧問をはじめ、新メンバーも交えて16名が参加、和やかな懇親会となりました。また、来年2月6日（土）には第4回総会を予定しています。現在会員は92名ですが、メディアに携わる海城OB諸兄の新規入会を心より歓迎いたします。事務局までお問い合わせください。皆様の参加

を心よりお待ちしております。

(S62年卒 松長哲聖)

海志会

総会開催予定

海志会では、来年2月に総会を開催する予定です。具体的な日時、場所については決定次第連絡しますが、会則で規定している最終土曜日から2〜3週間前倒しの可能性があります。



なお、海志会では、随時会員を募集中です。本会への入会をご希望の方は、海原会ホームページの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からご連絡ください。ご連絡の際は、必ず勤務先をご明記ください。

士業会・医業会・海志会 合同新年会

1月16日（土）に士業会・医業会・海志会の合同新年会を行います。会のメンバーはもちろん未入会の方のご参加も大歓迎です。参加は士業会・医業会・海志会の参加資格（詳細はHPトップのお知らせを参照）のある方に限らせていただきます。15:00から各団体の分科会を海城学園で行い、17:00から懇親会を行う予定です。詳細は海原会HPにてお知らせしていきます。

永年会費納入者

(敬称略)

昭13	加藤 隆之	平9	山本 憲
(追加一万円)		(二万円)	
昭16	黒田 弘毅	平11	弘田 隆一
昭16	林 繁一	平12	小関 隆善
(追加一万円)		(追加三万円)	
昭25	梅沢 喬二	平12	森 喜彦
昭28	牛込新一郎	平16	石川 新
(追加)		平18	安井 一哉
昭31	田村 健次	平19	柴崎 雄大
昭34	徳光 和夫	平20	稲葉 雄大
(追加三万円)		平20	千葉 統彦
昭34	吉荒 栄一	平21	植松 圭太
(追加三万円)		平23	山本修太郎
昭35	中里 英治	平24	雨宮 彰弘
昭35	山中 祥弘	平24	植松 陽介
(追加三万円)		平26	内田 雄人
昭36	内藤 正樹	平26	小風 奎介
昭42	小池 直幸	平26	清水 幹文
昭42	渡辺 正徳	平26	樋口 陽亮
昭44	吉村 誠	平26	山本哲二郎
昭46	西村 誠剛	平27	雨宮 佑樹
昭47	伊東 英二	平27	坂井 律輝
昭53	尾田 研一	平27	福田 康孝
昭56	加藤 誠	平27	本間紳太郎
昭56	塚田 達也	平27	山口 哲
(追加三万円)		平27	吉田 蓮
昭60	浦崎 孝行		
平2	岡本 健治		
平2	勝又 史郎		
平8	森山 武		

(平成27年4月から平成27年11月まで)

永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されています。ご了承ください。



鑑友会 昭和17年入学中学同期会 日本を憂うる

4月6日、東郷神社境内の水交会で中学同期会を催した。昭和17年入学、昭和22年卒業。入学時の200名が戦後100名に減少、現在の生存者は36名。会に参加したのはわずかに8名。あ。

皇国少年、3年3学期から中島飛行機工場へ学徒動員、お国のために働いた。戦争責任はないが、国の将来を憂うる気持ちは強い。原宿から竹下通りの喧騒と絢爛を歩いたのち、神社の静まりと少年兵や水雷艇などの戦



没記念碑をみつこの会場に來ただけに憂国の気持ちが高まる。Mがしきりと「日本に将来があるのか」と皆に聞く。日本経済の実力はどうか。地方の活性化はどうやって実現するのか。若者の気持ちはどうか。中国や台湾、韓国と比べてどうか、などなど果てしなく論議は続く。どうやら沖兄の話題からこういうことになったのでしようか。8人という淋しい集いでしたが、天候も良く、ご馳走をたらふく頂き、酒を飲みかわし、3時間におよぶとても有意義な時間でした。

東郷神社ではときおり結婚式が行われ、枝垂れ桜が垂れ下がる池の傍で写真を撮る姿が見られました。染井吉野は散り方になり、はらはらと散る花に抒情を掻き立てられました。

高嶋兄の返信のハガキにもありましたが、「咲く桜残る桜も散る桜」でしょうか。95歳を迎えられた向海男兄のお話をしみじみと聞きつつ、これからの老後の暮らしを兄のように端然と迎えねばならないと思つた次第でした。お元氣のように見えてもこれぞ問題を抱えつつ、来場したくても病や老齡でお出になれない方々が多くおられることを想わざるをえませんでした。

さて来年はたしてどうなるか心細い感がありますが、交友は永遠であり、続けることになりました。これからもうかお付き合い頂きたく、お願い申し上げます。なおメールでもハガキでもご遠慮なく山本までお知らせくださるようお願いいたします。

参加者は 池田 侑、萩原照之、倉田祐之介、栗岩隆嗣、福室嘉、向海男、山下高樹、山本直三の8名です。

(山本直三)

海原二七会 同期会

八二歳の若者たち

昨年、幹事の一人が具合が悪く、二七会は中止した。従つて、足掛け三年目で開催することができた。もつべきものは友人で、坂本誠二君が自社ビルの一室を開放して二七会の居場所を提供してくれた。感謝したい。同時に川手と夫君がお世話役を買って出て、八二歳の若者たちが集まることになった。坂本君は「気が向いたら何時でも遊びに来いよ。開けておくから」嬉しいじゃないですか。

かくして、十四人の若者？ たちが集まった。年をとつたが元氣のようだ。欠席者も消息を聞くと元氣のようだ。ただ年には勝てず、体力が伴わず無理なようだ。残念だがやむを得ない。お互い様だ。来年も体調を整えて氣楽に集まりましょう！

死ぬことを忘れて来てくれた仲間には次の通り。

市村磐根、上原繁、大野金次郎、金



子五郎、川手と夫、河野恒夫、坂本誠二、鯨島弘周、砂田郁郎、高田定男、塚田二雄、中島可明、藤原忠雄、山本満男。(山本満男)

海原二八会 同期会

また来年も6月に

6月20日、新宿車庫本店にて開催の28会にご出席下さいまして有難うございました。久しぶりに参加の田村公君、小松良司君を加え、昨年と同じ26名が集まり、楽しい刻を共有出来ましたことに幹事同心より御礼申し上げます。次期です。



当日の写真が出来上がりました。今回は写真と共に名簿・近況報告等の作成に際して杵村幹事がその費用を負担(半相当)してくれたことを併せてご報告いたします。次回(平成28年6月)元氣で再会しましょう。(幹事) 中村・茂野・新井・親松・杵村・伊藤・萩原

海原三三会

来年はもっと盛大にやろう！

九月末というのに残暑より朝夕の寒さを感じられる9月26日(土)5時30分より恒例の三三会を開催。母校カフエテラスで完成したばかりの人工芝の敷かれた青々としたグラウンドを眺めながらの参加者は20名でした。

司会進行役は池内宏君、先ず物故



者に黙祷。今年は幸いにいなかったようだ。開会挨拶と乾杯の発声は小生前田が行い始めました。何十年振りに登校し、駅からの通学路の変貌ぶりに驚き、また立派な校舎に仰天された方もありました。古賀喜博君から学園の近況報告、石原長夫君から前週の家城祭での海原会サロンの報告があり、池内君から10月9日に行われる海原会ゴルフ会の話がありました。今年は常連の出席者が入院中とか

病後のリハビリで参加者が減りました。でも元気な方々のご出席で楽しい一時を過ごしました。来年は平日のお昼に盛大なる「三三会」を予定していますので同期の皆さん是非ご出席をお願いします。中締めは袴姿で参加、剣道、神影流二十五世宗家豊島虎君の発声で元気に締めお開きとなりました。
(前田昌則)

海原三五会 同期会

親睦一層深める

恒例の11月第1水曜日の同期会が4日、池袋サンシャイン59階の「星のなる木」で行われた。参加者は21名といつてもより少なかつたが、その分自己紹介ではゆつくり時間が取れ、今までに聞いたことのない秘話も飛び出した。会場にはその都度「オウッ」という驚きの声が上ががり、これまで以上に親近感が増し、親睦を一層深めることができた。「ヨシ、これなら次回は級友を誘つ



てみようか。」という心強い発言もあり、制限時間を遙かに超え、和やかなうちにお開きとなった。
(渡辺育男)

昭和38年 海城中学3年A組クラス会 今回は古希で再会

五月晴れの5月17日(日)海城学園カフエラスにて、草薙秋男先生・木村昌珠先生(国語担当)をお招きし、十数年ぶりのクラス会(総勢16名)を開催しました。参加者の中には卒業後



初めて再会する人もおり、顔を会わせても思い出せなく時代の経過を感じるのでありました。自己紹介を行いながら近況報告などをしていると「ずいぶん変わったなあ」という声もあり、今までは違い皆さんが何かに吹っ切れたようで、中学時代の裏話や先生方も我々の知らないその当時の懐かしい思い出を話され、参加者一同が会話に花が咲き有意義な一時を持つことができました。これからの身体に気を付けて次回古希を祝いながら再会しよう

うと約束して散会する。(福原 修)

昭和60年卒 同期会 卒後30年の節目に

2015年9月26日(土)、卒後30年という節目に昭和60年卒の仲間が集まりました。場所は上野広小路にある純酒肴吟。会報「海原」でも紹介された昭和63年卒の坂元さんのお店です。石川君が幹事となり、卒業以来、初めて会う参加者も多かったです。30年の月日をあつという間に遡り、高校時代の気分でした。次回もよろしくお願いします！
(桜井誠人)



昭和61年 進邦先生クラス同窓会 もうすぐ30年

昭和61年卒・進邦先生クラス13組の同窓会を、2015年9月5日、「新大久保・日本海庄や」にて開催しました。

私たちは、来年の3月で卒業30年、ほとんどのメンバーが4度目の年男です。進邦先生は毎回の同窓会に参加して下さり、傘寿を迎えられ益々お元気です。



卒業以来、初の同窓会参加者もありました。高校時代の思い出話から、現在の仕事や家庭、また子供の大学受験など、充実した話が出来ました。最後は力自慢のメンバーの対決の腕相撲も行いました。

次回は2年後の9月、また元気に集い合いたいと思います。(栗原和弘)

海原六二会

コンペは年2回

昭和62年卒では春と秋の年2回同期コンペを開催しています。今年は5月と10月に実施しました。シングルから百十の王までスコアはさまざまですが、6回の開催で連覇はもちろん、2



回優勝した人もいないという団子レーズ。今年は5月に河島浩平選手(2組)、10月に松尾英治選手(6組)が優勝しました。
昭和62年卒では次回の同期会を平成28年3月13日(日)に予定しています。詳細はいつも通りメールやハガキでお知らせいたします。(国井信男)

奥村秀樹先生を偲ぶ会

去る3月22日、母校のカフエリアにて「奥村先生を偲ぶ会」が執り行われました。当日は御親族の皆様他、古賀理事長、懇意にされていた先生方、教え子達、大勢が一堂に会し、ありし日の先生との思い出話を花を咲かせました。教え子達一人一人が先生に教えて頂いたことを話し、先生への感謝の気持ちを表しました。先生の温かい人柄を改めて確認する機会となりました。当日は追悼文集も参加者に配布されました。先生が教師という仕事にどう向き合っておられたかが分かる素晴らしい内容でした。

(H6 小宮 欧)



平成18年 3年5組同窓会

結婚話も出始める

去る8月14日に平成18年度卒3年5組の同窓会が開かれました。毎年恒例となつたこの同窓会も今回で9回目となりました。我々もほとんどが社会人として働き始め、近況報告が勤務地や仕事の内容になりました。中には起業を成し遂げた同期や医師として働き始めた同期も現れました。皆が立派に社会人として働いている様子を聞くと、自分も負けていけないと良い刺激になります。渡邊先生を含め、皆のこれからの活躍が期待されます。また今回初めて結婚の話も出てきました。この前まで一緒に海城に通っていたはずの同期が結婚すると聞くと改めて時の流れの早さを実感します。そんな我々の同窓会も今回は記念すべき第10回目となります。今回参加できなかった方も、来年会えることを楽しみにしています。今回参加してくれた皆様、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。



(津田浩希)

文芸・生徒会OB会

10代から50代の仲間集う

文化祭実行委員会・生徒会OB会では毎年海城祭で1部屋借りてさまざまな催しをしています。

半世紀を超える歴代の海城祭のボス

ター・プログラム・Tシャツなどの展示は例年の通り。その他に今年はロボットの研究をしているOBの実演、各地で大道芸を披露しているOBのマジック、大学の医学部で教鞭を執るOBによる



医学部学生に必要な勉強のしかたに関する講演などが行われました。来年は125周年という節目にあたり、OB一同から気持ちが高ぶっています。(S62 国井信男)

バンコク

中田先生をお迎えして

海外支部の中でもバンコク支部にはもつとも多い海城OBが集い、活発に交流がされています。

6月に海城の中田大成先生がバンコクへ訪問された際には、夜に海原会バンコク支部の人たちと会食をされました。最近の海城の様子を聞いた、バンコクの海城OBは優秀な後輩の躍進に驚くばかりでした。



海外赴任の方がほとんどのため、出合いと別れはつきものです。10月には帰国される方の送別会と着任された方の歓迎会が行われたとのこと。まさに東南アジアの要となつていようです。(海原会広報部)

ホーチミン

乾期で爽やか



先日、海原会ゴルフ会ではホーチミン支部の梶宏光さん(昭和37年卒)

が今年も参加されました。順位表彰の際には梶さんが経営されているヒーローゴルフのオリジナル傘を提供いただき、飛び賞の賞品にさせていただきました。勝負強いというか、徳光和夫海原会会長がガッツリ飛び賞ゲット！

ホーチミンは11月から乾期に入りました。「湿度が低く、風もあり涼しい感じ」と梶さん。ベトナムでゴルフをしたい、という声が多く。海原会ゴルフ会のスピノフコンペができないか企画中です。(海原会広報部)

カンボジア

日本対カンボジア戦

9月にさいたまスタジアム、11月にアノンペンホーム&アウェーでW杯アジア2次予選の日本対カンボジア戦が行われた。両国友好の架け橋となるべく多くのカンボジア在留邦人がボランティアとして関わったが、海原会アノンペン支部の小市琢磨さん(H5卒)はその中核として活躍していた。



カンボジアで仕事をするとき、日本の感覚で進めようとしてもうまくいくとは限らない。今回も、サッカー協会やテレビ局はいつもの調子で仕事を進めようとしたが、停電対策の発電機が違ふ機材だった、テレビカメラを設置するはずのエリアの客席が売られてい

るなど、「まさかそんなことが起きるとは！」と日本側が口をあんぐりとするトラブルが連日のように起きる。そういったときに両国の考え方を知る小市さんたちが一つひとつの難題を解決していた。

またスポーツ観戦をする余裕のある国民が多くないカンボジア。それでも、日本側カンボジア側に関わらず、良いプレイがあるとカンボジアサポーターからは率直な拍手が送られていた。それを肌で感じた日本サポーターも多かったのか、試合が進むにつれカンボジアを応援する観客が多くなり、日本代表選手はやりにくかったことと思う。結果は日本の辛勝であったが実力差以上の接戦になった背景にはそういった雰囲気もあったのではないかな。

(国井信男)

野球部OB会

後輩たちの激励会に参加

夏の高校野球を前に野球部では恒例となつた激励会を実施。背番号が渡される際に選手は一言抱負を述べます。将来は政治家になるのではと思わせるスピーチをする者、まだ試合前なのに感極まって号泣する者。参加したOBは自分に重ねて、ジーンときていました。

野球部は再来年70周年を迎えます。



そのための企画が進行中です。またOB会と繋がっていない野球部OBの合流大歓迎。野球部OB会のHPもあるのでチェックしてください。

活躍個人 高野雄紀さん

JST理事長賞を受賞



高野さんが海城中・高の地学部で行っていた湧水量調査を展されたものだそうです。(海原会広報部)

活躍個人 石川ノボロラさん

講談社ラノベ文庫新人賞(天賞)受賞

石川ノボロラさん、本名里見大空さん(平成17年卒)、の作品『紙透トオルの汚れなき世界』が第4回講談社ラノベ文庫新人賞の大賞を受賞されました。



受賞作品は10月2日に発刊されています。(海原会広報部)

高校野球応援記

今年の海城野球部の夏は、注目の集まる開幕試合から始まった。そんな大舞台で最終回到6点差をひっくり返して逆転勝利をして見せたものだから、翌日の新聞にはミラクル海城の文字が躍った。そうすると2回戦の國學院戦の応援席は海城の活躍を一目見ようとOBが殺到。ここでも海城ナインは大勝利。神宮の森でここまで大音量の海城校歌が響いたことはなかっただろう。

3回戦は関東一高。ドラフトの目玉となったオコエ選手を凡打に打ち取る見せ場もあったが、さすがに地力の差は埋めがたく、最後は満塁サヨナラコールド本塁打を打たれて潔く散った。

何かと印象深かった今年の海城ナイン。引退した3年生は心機一転で受験にラストスパート。来春には合格の大本塁打をかつ飛ばしてくれと期待している。(海原会広報部)



海城OBが経営するお店を紹介しています。

海腹グルメ④

スクープ・バー

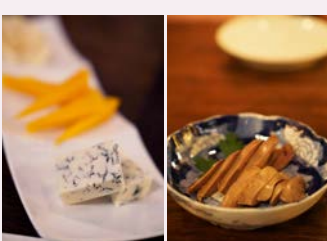
SKOOB(小田急線千歳船橋)

booksを逆さに読んでSKOOB(スクープ)。その名に違わず、店内には洋書がずらりと並ぶ。アカデミックな雰囲気の中で飲む酒は静かで、心に染みる一杯だ。

店主は平成11年卒の添谷格志さん。海城高校に入学するも最初の1年は通っていない。研究者の両親が留学したため家族でロンドンへ渡ったのだ。翌年に帰国し、1年遅れの海城生活が始まった。

高校時代は軽音楽部。この卒年の軽音楽部は豊作で、松本理寿輝さんは先ごろ最年少で政府の1億総活躍会議の民間議員に就任。菅原直洋さんはプロになり、I WISHのnnoとして発表した『明日への扉』はミリオンを記録している。そんな海城の印象を、知性に対して敬意を持つという集団だったと添谷さんは語る。

ICUを卒業後はアパレル業界へ。しかし、好きな本や映画に触れる時間も無いブラックさに疑問を持ち退職し、暫くは職を転々とした。語学力を生かし叔父の手伝いで豪州へマグロを買い付けに行ったことも。そんなある日、有楽町のびいどろというニッカバーで奥深い酒の世界に出合い、人生の歯車がカチリと鳴った。



欧州のアンティークが中心の調度品はロンドン生活で培ったセンス。大学までに身につけた教養で様々な客の話にもついていける。店は



添谷さん自身を発表する場という考え方はライブ活動から醸成された。添谷さんの全てが繋がるこの店を、少年時代から知る仲間が「お前の実家にそっくりじゃん」と笑うのだそう。



棚にはこの秋に英国で買い付けてきたという何種類ものアイラモルトがずらり。添谷ワールドに身を任せ、今夜はじっくりと味わいたい!

★特典★

初回ディナー来店に限り、平成28年1月31日まで予約時に海城OBであることを告げるとSKOOBおすすめのスコッチウイスキーで作ったハイボールが一杯1000円でのサービスになります。

SKOOB(スクープ)

世田谷区桜丘2-15-14 1階

TEL 03(6413)7288

営業火〜金 12:00〜16:00 / 18:00〜23:00

土 18:00〜23:00

日 12:00〜16:00 / 18:00〜21:00

定休 月曜・第2・4火曜

(国井信男記)

自薦他薦、海城OBのお店情報をお寄せください。

海腹グルメ⑤

フラットリア・イタリア料理

FLATTORIA(高田馬場)

実はもう既に海城関係者の中では有名店?そんなFLATTORIAは高田馬場にあるイタリアン。普段使いはもちろんOBの結婚式の2次会、部活OB会の懇親会、PTAのランチ会などで訪れた方も多く聞く。

オーナーの渡辺順也さん(H9卒)はFLATTORIAの入居するビルの上の階でイノベーター・ジャパンというIT系の会社を経営していて、元々は店の常連だったところが、3・11の後イタリア人スタッフが続き、新たにスタッフを集めて自分で経営することにしたのだという。

渡辺さんは鍋こそ振ることはないが、なにせ食通。アドバイザーとして店に関わっている。「食は医療よりも健康に関わっていると思います。日本の外食業界の地位をもっと高めたいんです」と渡辺さん。本業がビジネスデザインで、日本の中に埋もれている強みを引き出すこ



とを目指しているだけに説得力がある。

イタリアで修行をしていた大貫成規シェフの料理は、イタリア中部のエミリア・ロマーニャ州を意識したものが多い。中でもパルマ産の生ハムはこだわりの一品だ。

自慢は手打ちの生パスタ。これからの季節、ワタリガニのトマトソースのトンナレツリはイチ押しだという。トンナレツリは角のある太めの麺。国産中力粉で打ったそれは歯を押し返してくるような弾力。それがカニ味噌がたっぷり入ったソースをまとうのだから、ごちそう感をグイグイ主張してくるというものの。

銀座・青山レベルのイタリアンを高田馬場でやろう!がFLATTORIAのスタッフの合い言葉。是非ご賞味あれ!

★特典★

初回ディナー来店に限り、平成28年1月31日まで予約時に海城OBであることを告げると乾杯の生ビールがサービスになります。

Cucina Italiana

FLATTORIA(フラットリア)

新宿区高田馬場1-25-30 2・3階

TEL 03(3205)9182

営業火〜土 11:30〜15:00 / 17:00〜23:00

日 11:30〜15:00 / 17:00〜22:00

月曜定休

(国井信男記)



16